

■ 本文

- ① 子となり給ふべき人なめり。（『竹取物語』）
- ② 家の作りやうは、夏をむねとすべし。（『徒然草』）
- ③ 毎度ただ得失なく、この一矢に定むべしと思へ。（『徒然草』）
- ④ 天下の物の上手といへども、始めは……諸道変るべからず。（『徒然草』）
- ⑤ いはむや、所により身のほどに従ひつつ、心をなやます事は、あげて計ふべからず。（『方丈記』）
- ⑥ 咲きぬべきほどの梢、散り萎れたる庭などこそ、見所多けれ。（『徒然草』）
- ⑦ 世に従はん人は、まづ機嫌を知るべし。（『徒然草』）
- ⑧ 作文のにぞ乗るべかりける。（『大鏡』）
- ⑨ 例のことども皆しをへて、解由など取りて……船に乗るべき所へわたる。（『土佐日記』）
- ⑩ いでや、この世に生まれては、願はしかるべきことこそ多かめれ。（『徒然草』）
- ⑪ この戒め、万事にわたるべし。（『徒然草』）
- ⑫ かの大納言、いづれの舟にか乗らるべき。（『大鏡』）
- ⑬ その男……京にはあらじ、あづまの方に住むべき国求めにとて行きけり。（『伊勢物語』）

■ 設問（全23問）

1. 例文①「子となり給ふべき人」の「べき」の意味として最も適切なものを、次から選べ。
ア 推量 イ 意志 ウ 可能 エ 当然 オ 命令 カ 適当
2. 例文①「べき人なめり」の「なめり」は、もとはどのような形か。次から選べ。
ア なるめり イ なんめり ウ なりめり
3. 例文①「子となり給ふべき人なめり」を現代語訳せよ。
4. 例文②「夏をむねとすべし」の「べし」の意味を、推量・意志・可能・当然・命令・適当の中から選び、答えよ。
5. 例文②「夏をむねとすべし」を現代語訳せよ。
6. 例文③「この一矢に定むべしと思へ」の「べし」の意味として最も適切なものを選べ。
ア 推量 イ 意志 ウ 可能
7. 例文③「この一矢に定むべしと思へ」を現代語訳せよ。
8. 例文④「変るべからず」は、打消推量「まじ」を使うと「変る□□」と言いかえられる。□□に入る語を答え、「べし+ず」と「まじ」の関係を説明せよ。
9. 例文⑤「あげて計ふべからず」の「べから」は、もとの「べし」のどの意味に打消が付いた形か。推量・意志・可能・当然・命令・適当の中から選べ。
10. 例文⑤「計ふべからず」の「べから」の活用形を答えよ。
11. 例文⑤「心をなやます事は、あげて計ふべからず」の傍線部「あげて計ふべからず」を現代語訳せよ。
12. 例文⑥「咲きぬべきほどの梢」の「べき」の意味として最も適切なものを選べ。

ア 推量 イ 命令 ウ 可能

13. 例文⑦「まづ機嫌を知るべし」の「べし」の意味として最も適切なものを、当然・命令・適當の中から選べ。
14. 例文①「べき」、例文②「べし」、例文④「べから」、例文⑧「べかり」について、それぞれの活用形（未然形・連用形・終止形・連体形・已然形）を答えよ。
15. 助動詞「べし」の活用を、ク活用型にならって順に書け（未然形から命令形まで）。命令形がない場合は「○」と記せ。
16. 「べし」は原則として動詞のどの活用形に接続するか。活用形の名称で答えよ。
17. 例文①「なり給ふべき」、例文⑨「乗るべき所」では、「べき」のすぐ下に体言が続いている。このことから「べき」は何形だと判断できるか。活用形の名称で答えよ。
18. 「べし」がラ変型の語に付くときは、終止形ではなく何形に接続するか。「あり」を例にして説明せよ。
19. 「べし」の打消にあたる助動詞は何か。ひらがなで答えよ。また、その助動詞は「べし」のどの意味を打ち消すか、対応を一つ説明せよ。
20. 「スイカトメテ」とは「べし」の何を覚えるための語呂合わせか。漢字で六つ、その内容を答えよ。
21. 例文②「すべし」と例文④「変るべからず」では、話し手の伝えたい内容の性質が異なる。両者の意味のはたらきの違いを、二十字程度で説明せよ。
22. 次の現代語の文を「べし」を用いた古文に直すとき、()に入る「べし」の活用形を答えよ。「ここで止まる()。」「(=ここで止まるべきだ、の意で文末を言い切る)
23. 「べし」は、格式の高い文章や漢文訓読調の文章でよく使われる。その理由として最も適切なものを次から選べ。

ア 話し言葉に近いから イ 当然・命令などの強い調子を出せるから ウ 和歌専用の語だから